

企業スポーツの歴史と現状の考察

A study on the history and current state of Japanese sport system

1K03B035-7 大宮健司

指導教員 主査 宝田雄大 先生 副査 間野義之 先生

【序論】

2004年のアテネ・オリンピックには、日本は歴代最多の37個のメダルを獲得した。しかし、獲得したメダルのうち、チームスポーツのメダル獲得はソフトボールと野球だけで、男子は野球、サッカー以外は本大会に出場できないなど低迷が際だった。その原因として企業スポーツの衰退が挙げられる。日本のチームスポーツは企業スポーツが行ってきたが、1990年代以降300もの企業チームが休部・廃部によって消滅し、その中には男子バスケのいすゞ自動車、女子バレーのダイエー等の名門も含まれた。このように、これまで日本のトップスポーツを支えた企業スポーツは、縮小しつつある。ここで一度企業スポーツのあり方を再考し、再び活性化するためにはどうしたらよいのかを考えていく必要があるのではないだろうか

【研究目的・方法】

本研究は文献・資料によって以下の2点を研究することを目的とした。

- ・企業スポーツの成立と衰退の背景を明らかにすること。
- ・今後の企業スポーツのあり方についての考察をすること。

また、これらをふまえた上で今後の企業スポーツのあり方についての考察を行う。

(1) 企業スポーツの拡大と縮小の背景

《企業スポーツの芽生え》

資本主義の発生とともに発生するようになった労働運動に対し、日本の企業は従業員を家族と考える家族主義的経営によって従属意識を根付かせようとした。そして企業は従業員に対する労務管理策としてスポーツチームを企業内に作った。これにより企業スポーツが生まれた。

《企業スポーツの発展》

企業スポーツが発展した理由として3点指摘した。

- ◇日本では学校体育としてスポーツが普及したため、欧米に見られた地域スポーツクラブが根付かなかった。
- ◇スポーツの高度化により、スポーツが政治的影響力を持つようになったため、日本は学生のキャリアを延長しスポーツを強化した。企業チームがその受け皿となったため、企業スポーツが次第に学生スポーツに取って代わった。

(企業スポーツの高度化)

◇企業は強豪チームを持つことで「社内求心力」「広告宣

伝効果」を得ることが出来た。そのため自社チームを強化し、企業間の競争が激化したため企業スポーツは発展した。

(企業スポーツの最盛)

《企業スポーツの縮小》

企業スポーツ縮小の要因として以下4点を指摘した。

- ◇バブル経済崩壊による不況
- ◇衛星放送の開始によるメディアの国際化と多様化
- ◇日本型経営の失墜と欧米型経営の導入
- ◇国際的なスポーツの高度化

これにより、企業スポーツの縮小は、急激なグローバル化によって「広告宣伝効果」「社内求心力」といった効果が減少したことで水面下に起きていた企業におけるスポーツの位置づけの低下が、バブル経済の崩壊が引き金となりスポーツの休部・廃部という事態として表面化した結果であるということがわかった。

(2) 今日の企業スポーツの位置づけ

企業スポーツに対する認識の変化の特徴として以下の3点を指摘した。

- ◇チーム所有をCSRとして考える企業が増えていること
- ◇チームの事業化の必要性が高まっていること
- ◇経営資源としての位置づけが確立していること

このことから企業はスポーツチームを、以前のような広告・宣伝媒体としてではなく、戦略的フィランソピーとして捉え、企業ブランド及び社会的存在意義を高めるための手段として位置づけるようになったと考えられる。

【今後の企業スポーツのあり方の考察】

本研究を通して、企業スポーツとはその時に応じて企業内における存在意義を変容させてきたことがわかった。現在企業を所有し続ける企業は、CSRにスポーツのメリットを見いだしている。欧米では「CSR=企業の競争力強化」という位置づけが一般的であるため、大企業を中心にCSRへの自主的な取り組みが盛んになってきているが、日本ではCSRが言われ始めて日が浅く、本格的に浸透し始めるのはこれからだと思われる。従って、今後CSRとスポーツの関係を明らかにしていくことによって、企業のスポーツへの取り組みが活性化することが期待される